



ジェネリック医薬品について

先発医薬品（これまで使われてきた新薬）の特許が切れた後に医薬品メーカーが製造・販売する「ジェネリック医薬品（後発医薬品）」は、厚生労働省から「先発医薬品と同じ有効成分を同量含んでおり、（先発医薬品と）同等の効き目がある」と認められた医薬品です。それまで使われていた先発医薬品に比べて薬の値段が4割～5割程度安くなるため、ジェネリック医薬品の普及によって、一人ひとりの自己負担や国の財政・健康保険組合の負担などの削減、ひいては高齢化社会の進展によって増大を続ける国民医療費の抑制にもつながります。特徴やメリットを理解していただき、ぜひジェネリック医薬品をご活用下さい。

ジェネリック医薬品とは？

先発医薬品を開発した医薬品メーカーには、その新薬を独占的に販売できる特許期間（20～25年）があり、その期間が終了すると、新薬に使われた有効成分や製法などは国民共有の財産になります。そして、厚生労働省の承認を得られれば、他の医薬品メーカーでも「ジェネリック医薬品」として製造・販売が可能になります。複数の医薬品メーカーが製造するジェネリック医薬品には、高血圧や高脂血症、糖尿病、花粉症といった様々な病気・症状に対応するものがある上、その形態もカプセル・錠剤など多様です。

どんなメリットがあるの？

先発医薬品の研究開発には、約9～17年程度の長い歳月と数百億円から数千億円を要すると言われる莫大な投資費用が、コストとして薬の値段に反映されています。これに比べてジェネリック医薬品の場合、既に有効性や安全性について先発医薬品で確認されていることから、開発期間やコストを大幅に抑えられ、結果として薬の値段も先発医薬品と比べて4割～5割程度も安く設定することができます。

効き目や安全性は大丈夫？

ジェネリック医薬品は、「安くて本当に効き目はあるのか」「安全性は大丈夫なのか」と心配する方もいるかもしれませんが、しかし、ジェネリック医薬品の開発にあたっては、医薬品メーカーにおいて様々な試験が行われており、それによって先発医薬品と効き目や安全性が同等であることが証明されたものだけが、厚生労働大臣によって承認されます。



政府広報オンラインより

4月からの診療科・担当医の変更について

木曜日 内科

新たに、北原 医師の診察を開始します。
芹澤 医師も変わらず終日、診察します。

木曜日 整形外科 → 外科

山賀 医師 → 平本 医師
長束 医師

※5月にも診療科・担当医の変更が一部
予定されています。詳細は決定次第、
お伝えします。

春の全国交通安全運動が始まります

平成29年4月6日(木)～4月15日(土)までの10日間

【運動の重点】

- 1 歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
(自転車については、特に自転車安全利用五則の周知徹底)
- 2 後部座席を含めた全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 3 飲酒運転の根絶
- 4 **脇見運転の防止** (三島市・函南町の重点)

新年度が始まります。
子供や高齢者を交通事故から守りましょう！

